

分野：3R

(世界で取り組む環境問題)

環境アドバイザー

大森 幸子

対象 文京学院大学 新文明コース（11人）

所要時間  3時間 30分

場所 東京都文京区本郷

実施時期 令和4年2月1日

概要

日本の環境問題の改善の概要や歴史
カンボジアの若者が取り組んだ、ゴミの削減とその効果
大学学内での、プラスチックの削減への取り組み方
日本の学生から、カンボジアの若者への発信

プログラムの ねらい

世界の課題であるプラスチック削減について、国境を越えた取り組みとして考える。その一つの例として、カンボジアの若者達が行ったゴミの削減の取り組みについて知る。さらに、日本の大学構内でのプラスチックの削減活動を計画し、プラスチックの削減の意義を考え、カンボジアの若者とその意義を共有する。

プログラムの内容

1. 講義（60分）

カンボジアにおける、若者達のゴミ問題の取り組みについて

2. ワークショップ（110分）（本大学内でのプラスチック削減への取り組み）

1. 大学学内のプラスチックの削減に向けた戦略作り（グループ活動）
2. 戦略を基にした活動企画書作成（個人活動）
3. カンボジアの学生に発信したいこと（グループ活動）

3. まとめ（10分）

質疑応答

受講者の反応 本研修では、長時間のリモートの講座にもかかわらず、学生達は大変熱心に講義とワークショップに臨んでくれた。若者一人一人が、身近な環境問題を自分達のこととして捉え、振り返りでは多くの意見が得られた。（以下の文は、振り返りの中から抜粋した）

- ・学内で行う環境問題の活動であっても、発信することで他の地域の人々の問題意識を変えられるかもしれないという気付きを得た。身近なことであっても発信していくことが大切なのだと思う。
- ・ごみ問題には誰か一人が動くだけでなく、皆で意見やアイデアを出し合ってリーダーシップの育成や活動に取り組むことが重要であると考えさせられた。
- ・カンボジアのごみ問題の現状について詳しく理解できた。また、日本のゴミ問題の解決の歴史などから、世界の課題であるゴミ問題を深掘りすることが出来た。
- ・カンボジアのゴミ問題の深刻さや、それに立ち向かう重要性を知った。等

環境学習の様子（写真）

